



平間 智治

ハード面でのバリアフリーについて

【平間】 公共施設の男子トイレにサニタリーボックスの設置ができないか。

【答弁】 尿失禁や頻尿などの症状が残る方など、おむつや尿漏れパットを利用する方も増えています。多久市役所の庁舎男性用トイレには、既に設置しています。今後は、利用者の多い施設や、不特定多数の利用が見込まれる施設を中心に随時設置してまいります。

【平間】 街歩き点検等についての取り組みは。

【答弁】 県と市が連携して取り組んでいます。点検の内容にバリアフリー点検が位置づけられ、歩行の段差確認、点字ブロックの識別、看板等の不法占拠等について、視覚障害者の方や車椅子の方と多久駅周辺の区間を点検しました。市内では、平成26年と令和3年にそれぞれ実施をしています。

心のバリアフリー(ソフト面)について

【平間】 国は、心のバリアフリー(ソフト面)のガイドラインでは、実施主体となる市町村などが障害当事者団体や学校といった関係者と連携し、計画的かつ継続的に取り組むよう求めています。

【答弁】 バリアフリー教室の取り組みは、多久市社会福祉協議会の事業で、市内の学校児童生徒を対象として、「ふくしの種まきプロジェクト」福祉体験学習の取り組みが行われています。

中央校では年5回の講座があり、ふくし講話、アイマスク体験、高齢者疑似体験、手話体験、妊婦疑似体験、障害者スポーツ体験が実施されています。



中央校 福祉体験

【その他の質問】 ▼障害者と健常者が共に学ぶ「インクルーシブ教育」の推進について

【答弁】 微で、給付を申請すればポイントを受け取れるというものです。導入については財源等を含む検討が必要と考えています。



【提案】 自治体ポイント制度を活用して、既に基盤がある商工会等と連携し、市内の活性化等への強化を図ってほしい。

【香月】 デジタルデバイドの対応について、高齢者やデジタル機器等の弱者についてどのように対策を取っていくのか。

【答弁】 高齢者を中心に講座を実施してきました。今後、幅広い世代にも実施ができるように、各地区のサロン等での開催も検討してまいります。



【香月】 マイナンバーカードの自治体ポイント制度に取り組んでみては。

【答弁】 子育て世帯への支援金や健康増進活動に参加した住民への特典など、幅広い施策に活用できるのが特



樺島 永二郎

多久市児童センター「あじさい」

【樺島】 児童館利用者の中で、東部校・西深校区の利用者が少ないが、その対策は、ふれあいバスやスクールバスの活用は考えていないか。

【答弁】 あじさいで行っているイベント等を知ってもらうため、学校の協力を得るなど広報周知に努めています。ふれあいバスについては、「あじさい前バス停」があるので、工夫して周知に努めます。スクールバスの利用については、現時点で考えていません。

【樺島】 ファミリーサポートセンター事業では、年間を通して利用している会員は、1〜4人。協力会員が2〜3人の状況です、原因をどう考えるか。

【答弁】 利用を希望する子育て世帯の方が、いざという時に使えるように事前に登録をされている状況だと認識しています。



児童センターあじさい

【提案】 年間を通して利用されている方が現在のような状況であれば、新しい取り組みを考えては。

【樺島】 発達障害児等療育訓練支援事業では、待機状態で療育訓練を受けられない児童がいます。これを解消するために職員を増やし、療育訓練の回数が増える取り組みができないか。



山本 茂雄

多久駅周辺土地画整理事業

【山本】 中心市街地の活性化に向けた取り組みについて。

【答弁】 アートによるまちづくりとして実施されたウォールアートプロジェクト事業については、旅行雑誌に取り上げられるなど、中心市街地へ人を呼び込み、周遊させるスポットとして人気となっており、この事業はさらにスポット数を増やすべく、協議が進められています。

「よって見んしゃい!軽トラ市多久」は、コロナ禍において2年ほど開催を自粛されていましたが、6月から本格的に再開されました。毎月のイベントとして定着し、あじさいとを中心に、多久駅周辺の交流人口の増加に結びついています。

地方創生に向けた相互連携協定を結んだ株式会社トルビスオン様、株式会社イノベーションパートナーズ様もまちづくり協議会かつやく隊にご協力をいただき、様々な取組に向けた



よって見んしゃい!軽トラ市多久

協議を行っています。今後も一般社団法人たく21を中心に、まちづくり協議会、商工会、様々な団体市民の皆様と多久市が互いに特性を踏まえた上で連携しながら、中心市街地活性化を進めていきたいと考えています。